「言語・認識・表現」第20回年次研究会

共催： NPO言語研究アソシエーション

日程： 2015年11月28日（土） AM10:10～PM6:30

会場： 東京都千代田区役所図書館第1第2研修室（9F））

東京都千代田区役所図書館第1第2研修室

事前登録不要

10:10～10:15

研究会主査あいさつ

①10:15～11:15

「言語学以前のこと」

鈴木覺　愛知県立大名誉教授

②11:15～12:15

岩垣守彦　ALR

「付加情報＋体言」と「名詞＋付加情報」という壁を乗り越える

昼休憩

③13:15～14:15

「日本語表現分類体系と翻訳ソフトを用いた英語学習支援サイトの構築」

宮崎正弘（ラングテック）

④14:15～15:15

「Eラーニングによる医療英語学習環境の最適化について」

逸見明子 エジンバラ大学

休憩　10分

⑤15:25～16:25

仮題「非常識の日本語－三浦つとむ認識論による日本語解明 」

今井幹夫　ベトナム日本語学院

⑥16:25～17:25

「遍在する物語性について」

新田義彦 日本大学

⑦17:30～18:30

「条件法に解釈される連体節の特質とその英訳手法」

佐良木昌　ALR

18:40～20:30

懇親会　　千代田区役所食堂　会費：2000円

目次

発表1……2

発表2……2

発表3……3

発表4……3

発表5……4

発表6……4

発表7……5

研究会の趣旨……6

岩垣守彦

ALR

「付加情報＋体言」と「名詞＋付加情報」という壁乗り越える

今まで，英語の「名詞＋付加情報」と日本語の「付加情報＋体言」とは，対応するかのように取り扱われてきた．しかし，たとえば，「夜明けに見る夢」とthe dream we have at dawn は情報として等価関係にあるのだろうか．この問題は，究極的には「個を優先する」か「群れを優先するか」という壁にぶつかると思うのであるが，情報伝達という観点から，日本語の「連体節＋体言」と英語の「名詞＋関係詞節」という壁を乗り越えたい．

新田義彦
日本大学

遍在する物語性について

物語には起承転結に相当する構造（いわゆるストーリ）があって、読み手の興味と理解を励起する効果を持っている。このような物語の特性を抽出し一般化すると、「物語性」という概念が得られる。人間社会における言語運用の場（空間）の至るところに、物語性が存在して知的コミュニケーションを効率化あるいは強力化しているように思われる。

一方また、物語の構造を持たない（物語性が希薄な）言語運用の場も存在する。このような場では、どのような機序でコミュニケーションの発信と受信における関心の惹起と維持がなされているのであろうか？

一見超短文の羅列に見える連句の編みあげなどを例に、平素漫然と考えていることをお話して、LACE研究会の諸賢のコメントをいただきたく思います。

言語学以前のこと

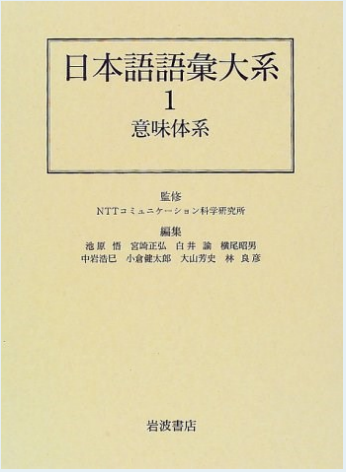
個々の言語現象を記述するだけなら未だしも、それらの諸々の現象を貫くより本質的なことを追究しようとすると、個々の現象から特殊性を捨象して普遍的な側面を抽出する思考作業の過程でどうしても抽象的な概念を用ゐて論を進めることになるが、抽象概念の依つて來るところを忘れて議論を進めがちになる。これまでの言語学の歩みの中にもそのやうな誤りが見受けられる。過去の誤りを正しく見つめ直すことから出直さなければ、いたづらに過去の轍を踏むばかりであらう。

鈴木覺
愛知県立大名誉教授

日本語表現分類体系と翻訳ソフトを用いた英語学習支援サイトの構築

ネットに繋がったパソコン・タブレット端末・スマホを用い、体系的な文法 知識 を習得・確認すると共に、英語と日本語の文構造・表現の違いやその背後にある発想法の違い等を理解する こと で英語の読み書き能力を高めることを目的とした英語学習支援サイトを構築した。本発表では、本 サイト上で動作する英語学習支援ツールを紹介し、今後、考える英語学習を促すより良いサイトをどのよう に実 現するかについて論じる。

宮崎正弘
ラングテック



逸見明子

エジンバラ大学

https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A8%E3%83%87%E3%82%A3%

Ｅラーニングによる医療英語学習環境の最適化について

近年、オリンピック需要を受け、訪日外国人の数が激増しており、医療現場での外国人患者受け入れ態勢の整備が急務となっている。当発表では、ctivity Theoryの考え方を取り入れながら、医療現場での英語研修実施とＥラーニングを併用することで、如何に学習環境を最適化させ、学習効率を高める教材コンテンツを作り込んでいくことができるのかを解説していく。

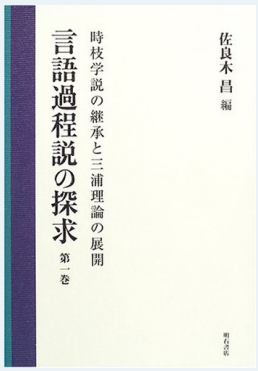
今井幹夫

ベトナムSJP日本語センター

「非常識の日本語―三浦つとむ認識論による日本語解明」（仮題）

・言語とは(日本語の入口もの・こころ・ことば　二つの概念）
・日本語の分析(粘土とすし　こそあど　横浜は東京の手前）
・言語教育の展望(わかることとは
・「認識論」と直接教授法の原理
・三セルと提出順

佐良木昌　ALR

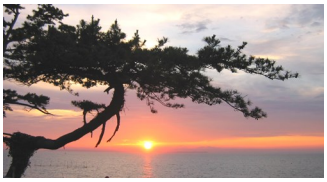


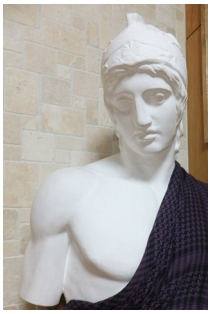
条件法に解釈される連体修飾節の特質とその英訳手法

古文における「連体形＋（形式名詞「の」を補う）＋係助詞／格助詞」という構成の連体節が体言格相当であるとき、条件法としての解釈が可能である。現代文においても、「連体形＋「の」＋「係／格助詞」の用法が、同じく条件表現として用いられている。主節が「対象語格＋感情形容詞述語」の文型が基本であるが、この感情表現の型が条件表現に拡張されている。条件法に解釈可能な連体修飾節－主節の構成を取る和文は、英訳においては主節－従属節が適切である。

英語・独語では形容詞である関係節は条件節に換言可能であるが、英語においては、非制限の関係節は原因・理由の従属接続節に換言可能であり、制限の関係節は条件の従属接続節に換言可能であるといった制約がある。

上記の二つの視点から連体節の英訳手法を検討する。





「言語·認識·表現」研究会の趣旨

一.

「言語・認識・表現」研究会は、多様で生きた言語表現を不断に理論化し、これを前提として言語の科学を確立することを目指して発足しました。本研究会は、諸学問分野の言語研究者が、各分野や個別言語の研究に徹底すると共にその研究成果をもって学際的に交流する場として発足しました。

二.

今日では、コンピュータと通信技術の発展普及により、多量の言語データを扱うことができるようになりました。言語データから規則性を発見するにしても、言語理論の検証事例として言語データを取り扱うにしても、生きた言語の実態に迫りうるための研究材料がそろってきました。

しかしその一方で、このような研究環境の利便性は、言語を単なるデータとして扱う傾向を強めることにもなっています。この中にあって現代言語学と計算言語学とは、言語を人間の対象認識および表現実践から切り離して、離散的な記号集合として扱う方法に、ますます拘泥しています。その方法ゆえに、膨大な言語データを利用すればするほど、言語の多様性を総体として把握できないという事態に陥っています。

この否定的な学問研究の現状は、言語という開かれた系の研究について、その方法論を確立すべきであることを教えています。言語分析の方法を検証し、さらに分析に適用した言語理論について反省することによって、初めて具体的研究の成果が言語理論の発展に結びつくのです。

「言語・認識・表現」研究会は、現代言語学と計算言語学とが陥っている問題点を根本から克服し言語の科学を確立することを目指して、結成されました。

三.

科学技術の発展の中で、言語理論が工学的解析や機械翻訳の実験において検証されると共に、このような自然言語処理の研究の中で得られた膨大な表現事例を言語学での考察対象として活用できうる環境ができつつあります。言語学プロパーの研究者と工学研究者とが共に論議して言語の科学を確立していく学際的地盤ができています。そこで、「言語・認識・表現」研究会は、専門分野を異にするが言語を探求する研究者同士の学問交流の場として発足しました。

四.

「言語・認識・表現」研究会は、研究発表および論議に重点を置きます。そのための時間を最大限とって研究会を運営します。言語の科学を確立しようとする研究者各位のご参加により、本研究会は成り立ちます。みなさまの積極的なご参加をお願いいたします。

１９９６年１０月４日

言語・認識・表現

LACE 2008−2009

LANGUAGE, COGNITION, & EXPRESSION

ヘンリー・ブラッドレー論文翻訳の公開にあたって	上田博和	3
ヘンリー・ブラッドレー『話し言葉と書き言葉との関係について、主に英語の場合を念頭において』	上西俊雄	5
siについて ―『関係詞論』補遺	鈴木覺	27
古池に蛙が飛び込んだら俳句にならない	岩垣守彦	45
日本語の論述様態の定型化について	岩垣守彦	51
言語変換のための日英対応関係(3)－動詞関連(1)―日英両後の論述態様(1)―	岩垣守彦	65
関係節を用いない、連体節の英語への変換パターン ―情報の比重を連体節の英訳方法に取り込む― 佐良木昌・	岩垣守彦	79
英和機械翻訳で使用する「関係詞」属性と英語単文の機械翻訳の関係 ―関係詞を含まない英文の文法的な特性― 柴田勝征・	長嶋秀典	87
資料 US式英日機械翻訳の概要 アンドロメテック	柴田勝征	95
アナロギア思考の系譜と言語表現の論理 ―発見の方法としてのアナロギアの構築―	佐良木昌	117
古代ギリシャにおけるテキスト様式と定型文の成立過程 ― その ―	佐良木昌	127
荻野貞樹先生と私 追悼を	上田博和	143
吉本隆明『日本語のゆくえ』における三浦言語学の誤読 追悼を	上田博和	155
「言語・認識・表現」研究会第13回 ・ 第14回年次研究会プログラム		156

「言語・認識・表現」研究会

「言語・認識・表現第20回年次研究会」

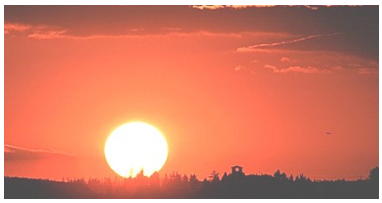
共催

言語研究アソシエーション

ALR

会員募集中

http://alr.la.coocan.jp

名古屋市東区葵二丁目2-21

電子メール: saraki@st.rim.or.jp